２０２３年７月

『 銀河鉄道の父 』

～宮沢賢治と父と家族の物語～

門井　慶喜

「銀河鉄道の父」は、第158回（2017年）直木賞受賞作品です。父親の視点で、息子、宮沢賢治を描いています。

賢治を語るとき、よく話題になるのは若くして亡くなった妹トシです。賢治に大きな影響を与えた人物と言われています。また、弟、清六は、賢治の遺稿の多くを守り抜き、宮沢賢治全集の校訂者として賢治研究に貢献したことで知られています。

過去、賢治の研究や評論はたくさんありますが、父親の宮澤政次郎の視点で賢治を論じたものはほとんどないかもしれません。

今年の５月、この「銀河鉄道の父」の映画が封切りになりました。賢治ファンとして期待が半分、不安も半分の気持ちで映画館に足を運びました。

この小説は、賢治を支えた父と家族の物語ですが、厳格であるがゆえ、息子に振り回され苦悩する父・政次郎を役所広司さんがみごとに演じていました。また、賢治役、菅田将暉さんの迫真の演技には涙が溢れました。

正直、私が想っていた賢治像とは少し違っていましたが、作者、門井さんが描いた賢治もまた、ひとつの宮沢賢治なのかもしれません。

賢治の遺言、「俺が死んだら原稿はみんなおまえにやるから、本にして出したいといってくるところがあれば出してくれてもいい」を受けとめた弟、清六により賢治作品は世に出ることとなります。

まさに、賢治は家族の愛に支えられていたのだと思います。